

つどい

第13号

発行日：令和6年2月

こんにちは！野木町交流センター「野木ホフマン館」です。
今回の「つどい第13号」でお届けするのは、概ね次のとおりです。

- 野木ホフマン館の近況と事業
- 野木町煉瓦窯のおはなしその⑬
- 自然豊かな渡良瀬遊水地その⑫

【野木ホフマン館の近況と事業】

町制施行60周年記念「煉瓦窯秋フェスタ」を11月18日（土）・19日（日）に実施しました。天気に恵まれ、メタセコイア並木の紅葉を見にくる方も重なり、町内をはじめ、県内外から多くの方に来場していただきました。秋フェスタは、煉瓦窯見学ツアー、各ワークショップ、模擬店等も多くの人で賑わい、臨時駐車場を利用するまでとなりました。ご来場ありがとうございました。

ホフマン館の11月、12月の講座等は、歴史講演会「日光街道と野木宿」、絵画教室「煉瓦窯編」、陶芸教室などを行いました。今後も講座等のご参加をお待ちしています。

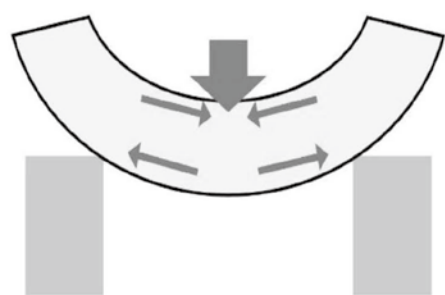
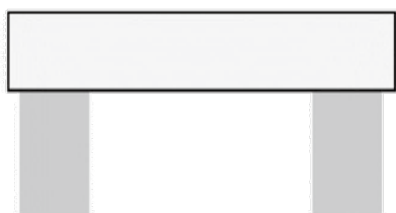


野木町煉瓦窯のおはなし その⑬

煉瓦や石などの材料を積み重ねて建物をつくる方法を「組積造」といいます。組積造の壁に出入口や窓をあけたり、柱で支えた天井や橋をつくるには、「まぐさ(横木)」か、「アーチ」を使います。

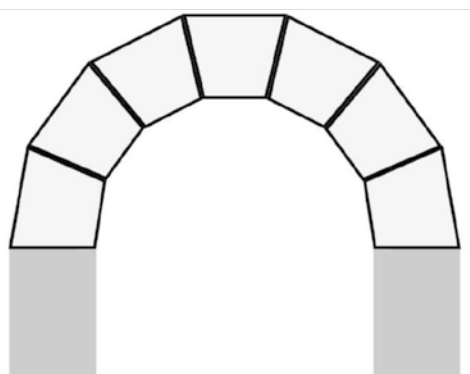
単純なのは壁や柱の上に「まぐさ」をのせる方法です。この場合、重力により「まぐさ」を折り曲げる力が働き、「まぐさ」の上面は縮められ、下面は伸ばされます。この結果「まぐさ」が重さに耐えられず変形したり壊れたりする可能性があります。これを避けようとする、「まぐさ」の長さや「まぐさ」の上の壁の高さが制限されます。

一方、アーチは土台とアーチを構成する材料どうしが押し合う力によってつり合いを取って支えあう構造です。上からかけられる力には強く、小さな材料でもつくることができます。



まぐさを使う場合

柱の間隔が広すぎたり「まぐさ」の上の壁が高すぎたりすると、「まぐさ」にかかる力に耐えきれず、「まぐさ」が変形してしまう。



半円(円形)アーチ

円を描く形のアーチ。くさび形(台形)の煉瓦を円形に組んでつくる。



野木町煉瓦窯2階の型枠
アーチはこのような型枠に
そって、下から積む。



ミニチュア煉瓦で
つくったアーチ
上にものをのせても
崩れない。

頂点がとがったもの、複数の小さなアーチを組み合わせて大きな一つのアーチをつくるもの、左右対称にならないものなど、古くから様々な形のアーチが考案され、つくられてきました。野木町煉瓦窯や他の煉瓦造の建物で、アーチがどこにどのように使われているか、探してみてください。
(つづく)

自然豊かな渡良瀬遊水地 その⑫

渡良瀬遊水地総合開発事業 ～水質保全対策～

渡良瀬貯水池（谷中湖）では、平成2年の運用開始直後から、カビ臭が発生し、水利用に大きな影響を与えました。カビ臭とは、水中に含まれる臭気物質のことで、窒素やリンを栄養とする植物プランクトン（藍藻類）などにより産出される物質です。近年は、カビ臭の発生は減少ぎみになっているものの依然として発生しています。その主な原因は、渡良瀬川・谷田川の栄養塩類を多く含む河川水が流入するため、植物プランクトンが著しく発生し、成長過程で生成されるジメチルイソボルネオール（2-MIB）、ジオスミンが原因と思われます。渡良瀬貯水池では、4つの水質保全対策を継続的に実施運用して、カビ臭の抑制に努力しています。

（次回、4つの水質保全対策）



参考文献

「渡良瀬遊水地」より
利根川上流河川事務所発行

渡良瀬遊水地の近況

冬の渡良瀬遊水地では、谷中湖や池内水路等で、コガモ・ハシビロガモ・ヨシガモ等、多種類の水鳥が見られます。また、ハイイロチュウヒ・ノスリ等のタカ類やジョウビタキ・ツグミ等の小鳥を見ることが出来ます。澄んだ青空が広がる渡良瀬遊水地に出かけてみませんか。

野木町交流センター

（野木ホフマン館）

開館日：火曜日～日曜日

9：00～18：00

（国民の祝日開館、翌平日閉館）

〒329-0114

野木町大字野木3324-10

☎ 0280-33-6667